

「体育・スポーツにおけるリーダーシップの心理学」

順天堂大学 町田萌

Email: moemachi@juntendo.ac.jp

Website/Blog: <http://moemachida.com>

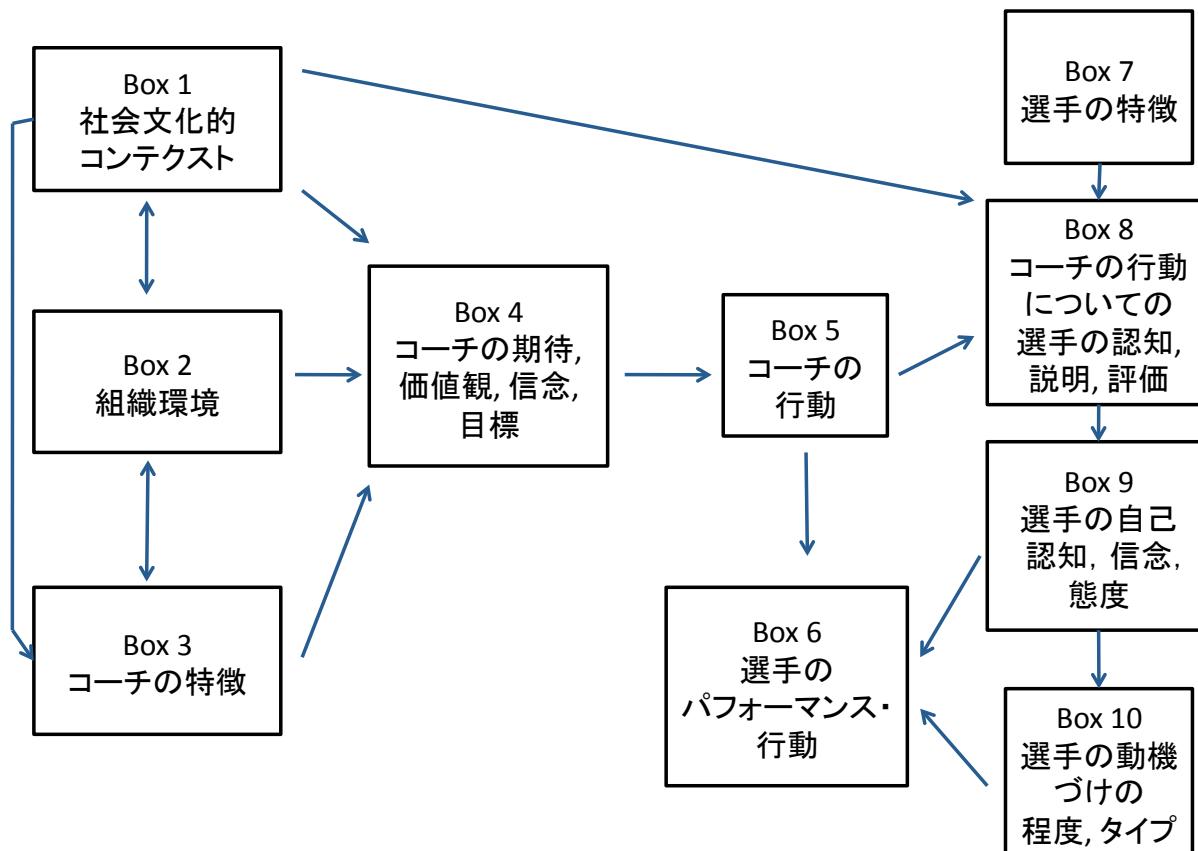
1. リーダーシップとは？

個人が集団の掲げる共通目標の達成に影響を与えるプロセス (Northhouse, 2001, p.3)

2. 海外研究の動向: スポーツ指導者のリーダーシップ

効果的なコーチング

- コーチング効果予備モデル (Horn, 2008)



コーチ行動

理論

- Multidimensional model of leadership (Chelladurai, 1978, 1990, 2007)
- The mediational model of leadership (Smith & Smoll, 1989)
- Coaching efficacy model (Fetz et al., 1999)
- Transformational Leadership Model (Bass, 1999)
- Self-determination theory (Deci & Ryan, 1985)

コーチング行動の分類

- Leadership Scale for Sports (Chelladurai & Saleh, 1980)
 - トレーニングとインストラクション
 - ソーシャル・サポート
 - 民主的行動
 - ポジティブ・フィードバック
 - 独裁的行動
- Differentiated Transformational Leadership Inventory (Callow et al., 2009)
 - チーム目標への受容を促す
 - 知的刺激
 - 高いパフォーマンスへの期待を持つ
 - 適切な見本になる
 - インスピレーション的な動機づけ
 - 随伴報酬
 - 個人への配慮
- Coaches' Interpersonal Behavior Scale (Pelletier et al., 2002); Sport Climate Questionnaire (Amorose & Anderson-Butcher, 2007; Matosic & Cox, 2014); Controlling Coaching Behavior Scale (Bartholomew et al., 2010)
 - 自律性サポート行動
 - コントロール行動

過程や調整変数に着目した研究

- 選手のコンプライアンスにおける“パワー”の役割(Rylander, 2014)
- コーチの心理的ウェル・ビーイング(Stebbins et al., 2011)
- 選手のナルシシズム(Arther et al., 2011)
- 感謝の態度とコーチへの信頼(Chen & Wu, 2014)

コーチによる動機づけ雰囲気

パフォーマンス（成績）雰囲気

自意識の喪失
自尊心の低下
不安の増加
自律統制の低下
パフォーマンス
自己効力感の不適応な情報源

熟達（学習）雰囲気

自尊心の向上
不安の低下
自律統制の向上
注意集中の向上
自己目的経験
(Autotelic Experience)
パフォーマンス
自己効力感の適応した情報源

(Cervello et al., 2007; Keegan et al., 2010; Magyar & Feltz, 2003; O'Rourke et al., 2014)

コーチ・選手関係

3+1C コーチ-選手関係

親密さ (Closeness) , コミットメント(Commitment), 相互補完性 (Complementarity) +
コオリエンテーション (Coorientation)

↓

セルフ・コンセプト

満足度

パッショナ

集団凝集性

(Jowett, 2005; Jowett & Cockerill, 2002; Jowett & Meekk, 2000;
Mageau & Vallerand, 2003; Rhind & Jowett, 2014)



(Rhind & Jowett, 2014)

ユースのコーチング

- 青少年教育・ポジティブユースデベロップメント
- スポーツを通したライフスキルのコーチング

(e.g., Cowan et al., 2012; Gould & Carson, 2011; Saville et al., 2014; Vella et al., 2011)

スポーツ指導者のキャリア

スポーツ指導者のウェル・ビーイング

仕事の安定性,	高いワークライフコンフリクト
プロフェッショナル・デベロップメントの機会の多さ,	プロフェッショナル・デベロップメントの機会の少なさ
低いワーク・ライフコンフリクト	
↓	↓
高いウェルビーイング	低いウェル・ビーイング
低いストレス	高いストレス

(Stebbins et al., 2012)

コーチのストレッサー

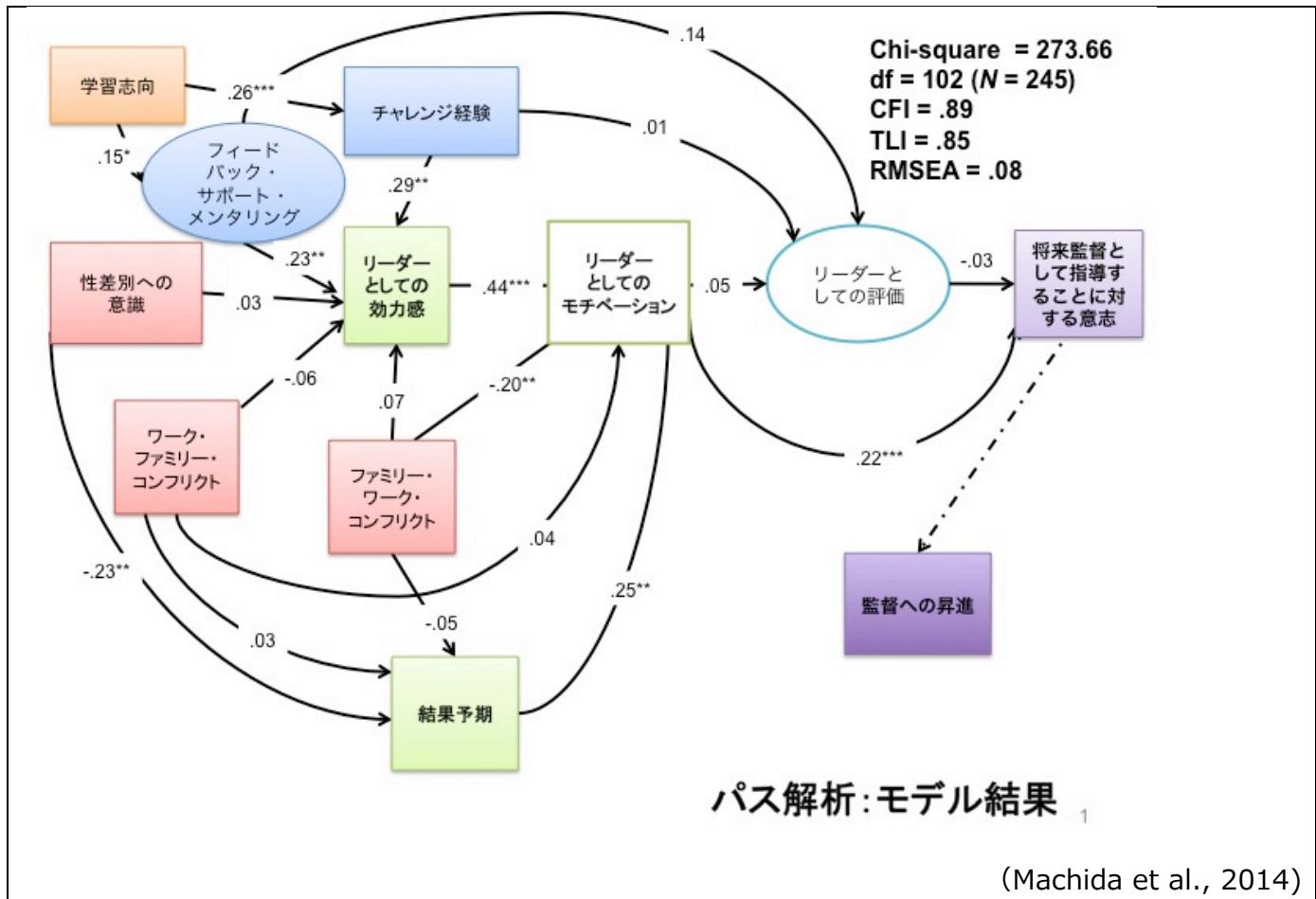
チーム内の摩擦, プレッシャー, 期待, 選手の心配, 試合への準備, コーチとしての選手への責任, 隔離された環境, 生活への負担, など

(Olusoga et al., 2010)

スポーツ指導者のキャリア発展要因

協働的環境	アイデンティティ
チャレンジ	コミットメント
サポート	モチベーション
メンタリング	効力感
フィードバック	結果期待
差別	学習志向性
ワークライフ・コンフリクト	

(Machida et al., 2014; McLean, Mallett, & Newcombe, 2012;
Pope & Hall, 2014; Raedeke et al., 2000)



3. 海外研究の動向：スポーツチームのリーダーシップ

定義

選手が共通のチーム目標の達成に向けて、チームメンバーに大きな影響を与える相互作用的プロセス
(e.g., Loughead, Hardy, & Eys, 2006; Price & Weiss, 2011)

- スポーツチームのリーダーシップ研究推移
増えている傾向（2010年以降は10本以上）
- 使用される用語
Leaders, Athlete Leaders, Player Leaders, Team Leaders, Peer Leaders, Leader Athletes, Captains

研究

○ 理論

1. Theory of formal structure (Grusky, 1963, 1975)
2. Multidimensional Model of Leadership (Chelladurai, 1978; Chelladurai & Saleh, 1980)
3. Role Differentiation Theory (Bales, 1953; Bales & Slater, 1955; Slater, 1955)
4. Transformational Leadership Model (Burns, 1978; Bass, 1985, 1998; Bass & Riggio, 2007)

スポーツチームのリーダーの特徴

高い競技力	コミュニケーション
マジョリティーの人種	変革的リーダーシップ行動
ワーク・エシックス	年齢
道具的リーダーシップ行動	ポジティブな態度
情緒的リーダーシップ行動	コントロールの認知
中心的なポジション	ソーシャル・サポート
競技経験	民主的行動
チームメイトとの信頼関係	

(e.g., Fransen et al., 2014; Gill & Perry. 17979; Glenn & Horn, 1993; Loy & Elvogue, 1970; Moran & Weiss, 2006; Rees, 1983; Todd & Kent, 2004; Wright & Cote, 2003)

スポーツチームのリーダーの影響

課題凝集性・社会凝集性、集合的効力感

(Callow et al., 2009; Price & Weiss, 2011, 2013; Vincer & Loughead, 2010)

スポーツチームのリーダーの発達

- プロアクティブなアプローチの必要性(Gould, Voelker, & Griffes, 2013 ; Voight, 2012)
- チームメイト, スポーツ指導者, 保護者の役割(Gould et al., 2013; Wright & Cote, 2003)
- スポーツ経験, リーダーシップ経験(Dupuis et al., 2006; Wright & Cote, 2003)

4. これからのリーダーシップ研究

- “リーダー”と“リーダーシップ”
- 理論を基盤にした研究
 - 理論構築の必要性
- 国際性の育成
- リーダーの成長・育成
 - 個人要因
 - 環境要因
 - 介入 (Blanton et al., 2014; Gould & Voelker, 2013; Voight, 2012)